

廃棄物減量化等推進員のみなさんが考えた どうしたら、ごみは減る？資源化はできる？

ごみの減量化や資源化について、地域の自治・町内会、商店会で3Rの活動をされている鎌倉市廃棄物減量化等推進員のみなさんに話し合っていた内容の一部をご紹介します。

- ・冷蔵庫の中身を定期的にチェックして、余計なものを買わないようにする。
- ・お店へ働きかけ、包装の省略化・簡易包装を徹底してもらう。
- ・燃やすごみとして扱っているプラスチック（バケツ・ハンガーなど）を資源化する。
- ・バザーやフリーマーケットを活用する。
- ・生ごみ処理機を自治・町内会規模でも推奨する。
- ・他市のように、指定袋を使用する。
- ・家庭内で子ども達にごみについての教育を行う。

まとめ

ごみの減量化や資源化には、お店や地域など社会全体の協力が必要になりますね。



「かまくら3Rかるた」がついに完成しました！



平成20年度から夏休み期間中に募集を開始した3Rかるた（市内小中学生対象）が、ついに50音分そろいました。

応募総数は3年間で3,590作品と、沢山の方々にご参加いただきました。ありがとうございます。

3Rかるたは市内小中学校や図書館などに配布するほか、資源循環課で貸し出しますので、ぜひご利用ください。

本年度の3Rかるたの最優秀賞・優秀賞・入賞作品は、鎌倉駅地下道「ギャラリー50」に展示いたします。展示期間は3月1日（火）～3月10日（木）です。



昨年11月15日に行われた入賞者表彰式の様子



編集委員の 処理施設に おじゃまします！

市内の廃棄物関連施設などを、環境ニュース編集委員が取材・紹介します。

第5回目：坂ノ下積替所

坂ノ下積替所で 行っていることは？

坂ノ下積替所では、「燃えないごみ、危険・有害ごみ」を種類ごとに粗分別しています。粗分別された後、蛍光管・乾電池は資源化施設へ、その他は選別施設へ運搬後、資源化されます。粗分別と選別の業務は「リネックス有限会社」に委託されています。蛍光管は住宅用断熱材や新しい蛍光管の材料等へ、乾電池は鉄製品や亜鉛地金等へ資源化されます。選別施設で選別した有価物は鉄や銅などに資源化され、不燃残さは資源化施設で熔融固化処理後、路盤材等になります。

ごみの仕分け、分類は手作業

粗分別の作業は、機械ではできない仕事で、すべて従業員の手作業で行われています。ごみ収集の大型車から出されるごみの量と種類の多さに驚きました。仕分け・分類は次の工程で行われます。

- ①燃えないごみ（金物、陶磁器、ガラス製品、小型家電製品、傘、電気コードなど）と危険・有害ごみ（蛍光管、乾電池、体温計、スプレーカン、カセットボンベ、割れもの、刃物類など）に分けます。
- ②ビニール袋や新聞紙など、ごみを包装した物から破砕機は使わずに、手作業で取り出します。
- ③蛍光管は丸型、20W型直管形（短い棒状）、36W型直管形（長い棒状）の3種類に分けます。



燃えないごみ、危険・有害ごみの積替場の様子。



集められた大量の小型家電製品。この後さらに分類されます。

- ④スプレーカンのふた、ノズルは手作業で取り除きます。
- ⑤小型家電製品は扇風機、掃除機、炊飯器とそれ以外の物に分けます。

ごみの出し方のお願い

スプレーカンは、中身を全部使ってから出してください。割れたビンや陶磁器、刃物、鏡などは紙に包み、「キケン」と書いて出します。蛍光管は、購入時の外箱に入れて出す方が、分別作業の効率がよくなるそうです。

取材を終えて

今更ながらごみ処理の初期の段階の重要性を感じ、また、こつこつと大変で危険な仕事をされている方々に深く感謝しなければならなかったと思いました。

（取材：編集委員 安東、今村、小泉）